

I. 住民基本台帳に基づく人口及び人口動態の概要

1. 住民基本台帳に基づく人口

(1) 概要

1世帯あたり世帯人員2.04人

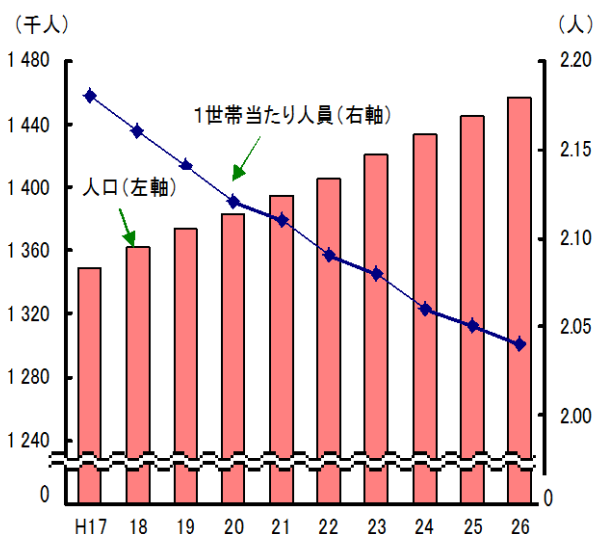
世帯規模の縮小続く

住民基本台帳に基づく平成26年9月末現在の福岡市の日本人人口は1,456,323人で前年（平成25年9月末現在）に比べ11,540人増加し、増加率は0.8%となっています。世帯数は715,395世帯で、前年に比べ9,941世帯増加し、増加率は1.4%となりました。

性別に見ると、男性は690,069人で、前年と比べて5,087人増加し（対前年増加率0.7%）、女性は766,254人となり、前年と比べて6,453人の増加（同0.8%）となっています。女性を100としたときの男性の割合を示す「性比」は90.1となりました。

1世帯あたり人員は2.04人で、前年比0.01人の減少となりました。人口・世帯数ともに増加傾向にありますが、世帯数の伸びが人口の伸びを上回っているため、1世帯当たり人員は減少が続き、世帯規模の縮小が続いています。

図1 人口及び1世帯当たり人員の推移



(2) 行政区別人口

人口・世帯数ともに全区で増加

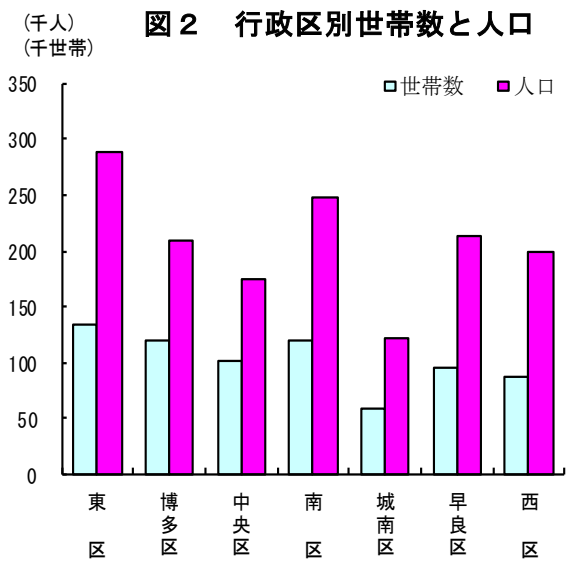
行政区別に見ると、人口、世帯数ともに全ての区で増加しています。人口は東区の288,583人が最も多く、次いで南区，早良区の順になっています。世帯数は，東区の135,013世帯が最も多く，以下，博多区，南区と続いており，人口，世帯数ともに最も少ないのは城南区となっています。人口増加数は，博多区の3,098人が最も多く，次いで中央区の2,145人となっています。世帯増加

表1 世帯数及び人口等の推移

(各年 9 月末現在)										
年	世帯数		人口		男	女	性比	1 世帯当 たり人員		
	前年増加率		前年増加率							
	世帯	%	人	%	人	人		人		
平成17年	618 034	1.6	1 347 823	0.8	642 842	704 981	91.2	2.18		
18年	630 866	2.1	1 361 060	1.0	648 387	712 673	91.0	2.16		
19年	642 514	1.8	1 372 840	0.9	652 935	719 905	90.7	2.14		
20年	652 282	1.5	1 382 563	0.7	656 798	725 765	90.5	2.12		
21年	662 040	1.5	1 394 017	0.8	662 176	731 841	90.5	2.11		
22年	671 525	1.4	1 404 525	0.8	667 402	737 123	90.5	2.09		
23年	683 885	1.8	1 419 311	1.1	674 197	745 114	90.5	2.08		
24年	694 512	1.6	1 432 532	0.9	679 533	752 999	90.2	2.06		
25年	705 454	1.6	1 444 783	0.9	684 982	759 801	90.2	2.05		
平成26年	715 395	1.4	1 456 323	0.8	690 069	766 254	90.1	2.04		

数も、博多区が2,462世帯と最も多く、東区が1,709世帯で続いています。

性比を見ると、東区と博多区が94.6と最も高く、次いで西区の91.3で、他の区と比べて男性の割合が多くなっています。最も低い中央区(79.0)、続く南区(88.6)は他の区と比べて女性の割合が多いことが分かります。1世帯当たり人員を見ると、最も多いのは西区の2.30人で、以下、早良区、東区の順になっており、中央区(1.73人)と博多区(1.74人)は、福岡市全体の2.04人を下回っています。



人口密度は、中央区が11,553人/㎢と最も高く、早良区が2,227人/㎢と最も低くなっています。

(3) 年齢別人口

老年人口割合の上昇が続く

福岡市の平均年齢は、男性が41.3歳、女性が44.1歳、全体は42.8歳となり前年に比べ0.3歳上昇しました。

年齢区分別の構成比を見ると、福岡市全体の15歳未満の「年少人口」の割合は13.9%で、前年同比となりました。15～64歳の「生産年齢人口」の割合は66.2%で、前年と比べ0.8ポイント低下し、65歳以上の「老年人口」の割合は19.8%で、前年と比べて0.8ポイント上昇しました。

行政区別に見ると、年少人口の割合が福岡市全体の割合(13.9%)より高いのは、西区、早良区、東区及び南区で、生産年齢人口の割合が福岡市全体の割合(66.2%)より高いのは中央区と博多区、老年人口の割合が福岡市全体の割合(19.8%)より高いのは、城南区、南区、西区、早良区及び東区となっています。

年齢構成指数を見ると、「年少人口指数(生産年齢人口100に対する年少人

表2 行政区別世帯数及び人口

(各年9月末現在)																						
市・区	平成25年				平成26年																	
	世帯数		人 口		世帯数		増加率		人 口		増加率		構成比		男		女		性比	1世帯当 たり人員	面積	人口 密度
	世帯	人	世帯	%	人	%	%	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人/㎡	
福岡市	705 454	1 444 783	715 395	1.4	1 456 323	0.8	100.0	690 069	766 254	90.1	2.04	343.38	4 241									
東 区	133 304	286 578	135 013	1.3	288 583	0.7	19.8	140 287	148 296	94.6	2.14	69.36	4 161									
博多区	117 458	205 534	119 920	2.1	208 632	1.5	14.3	101 433	107 199	94.6	1.74	31.62	6 598									
中央区	99 595	172 998	101 303	1.7	175 143	1.2	12.0	77 317	97 826	79.0	1.73	15.39	11 380									
南 区	117 495	248 830	118 545	0.9	249 270	0.2	17.1	117 107	132 163	88.6	2.10	30.98	8 046									
城南区	57 623	121 588	58 278	1.1	122 228	0.5	8.4	57 883	64 345	90.0	2.10	15.99	7 644									
早良区	94 935	212 405	95 705	0.8	213 520	0.5	14.7	101 100	112 420	89.9	2.23	95.87	2 227									
西 区	85 044	196 850	86 631	1.9	198 947	1.1	13.7	94 942	104 005	91.3	2.30	84.16	2 364									

注) 面積は平成26年10月1日現在

表 3 年齢階級別人口及び平均年齢

(平成26年 9 月末現在)

年 齢 (5 歳階級)	福岡市			東 区	博多区	中央区	南 区	城南区	早良区	西 区
	総 数	男	女							
総 数	1 456 323	690 069	766 254	288 583	208 632	175 143	249 270	122 228	213 520	198 947
0 ～ 4 歳	70 701	36 196	34 505	14 866	9 656	7 281	12 057	5 661	10 530	10 650
5 ～ 9	66 743	34 190	32 553	14 275	7 736	6 310	11 408	5 610	10 933	10 471
10～ 14	65 509	33 541	31 968	13 758	7 106	6 019	11 466	5 635	11 220	10 305
15～ 19	67 419	34 113	33 306	14 032	8 002	6 395	11 890	6 037	10 865	10 198
20～ 24	82 972	39 366	43 606	16 305	15 028	10 938	12 921	7 250	10 596	9 934
25～ 29	98 978	46 643	52 335	17 918	20 501	15 752	15 492	7 071	11 572	10 672
30～ 34	110 245	52 993	57 252	20 358	19 849	16 796	17 687	8 062	13 879	13 614
35～ 39	118 054	57 383	60 671	22 738	18 326	16 164	19 686	9 197	16 407	15 536
40～ 44	121 082	59 339	61 743	24 149	17 414	15 328	20 638	9 813	17 321	16 419
45～ 49	101 793	49 712	52 081	19 699	13 753	13 121	17 679	8 417	15 106	14 018
50～ 54	87 300	42 489	44 811	17 224	11 505	10 853	15 344	7 254	13 255	11 865
55～ 59	83 573	40 719	42 854	16 716	10 927	9 448	14 784	7 284	13 221	11 193
60～ 64	92 991	44 833	48 158	18 840	12 036	9 936	16 321	8 520	14 579	12 759
65～ 69	87 761	41 103	46 658	17 610	11 443	9 477	15 477	7 911	13 651	12 192
70～ 74	68 613	30 052	38 561	13 918	8 672	7 025	12 238	6 245	10 488	10 027
75～ 79	52 839	21 672	31 167	10 466	6 735	5 545	9 527	4 954	7 952	7 660
80～ 84	40 457	15 141	25 316	7 925	5 035	4 359	7 534	3 826	6 035	5 743
85～ 89	24 999	7 639	17 360	4 912	3 159	2 834	4 548	2 226	3 761	3 559
90～ 94	10 799	2 406	8 393	2 168	1 334	1 184	1 940	972	1 609	1 592
95～ 99	2 946	482	2 464	607	354	321	524	229	458	453
100歳以上	549	57	492	99	61	57	109	54	82	87
平均年齢	42. 8	41. 3	44. 1	42. 6	41. 7	42. 4	43. 4	43. 7	43. 1	42. 7
(区…男)				41. 2	40. 4	41. 0	41. 7	42. 0	41. 6	41. 1
(区…女)				44. 0	42. 9	43. 5	44. 9	45. 2	44. 5	44. 3

表 4 年齢別（3 区分）人口

(各年 9 月末現在)

年 齢 区 分	平成25年	平 成 26 年							
	福岡市	福岡市	東 区	博多区	中央区	南 区	城南区	早良区	西 区
年 少 人 口 (15歳未満)	201 272	202 953	42 899	24 498	19 610	34 931	16 906	32 683	31 426
構成比(%)	13. 9	13. 9	14. 9	11. 7	11. 2	14. 0	13. 8	15. 3	15. 8
生産年齢人口 (15～64歳)	968 414	964 407	187 979	147 341	124 731	162 442	78 905	136 801	126 208
構成比(%)	67. 0	66. 2	65. 1	70. 6	71. 2	65. 2	64. 6	64. 1	63. 4
老 年 人 口 (65歳以上)	275 097	288 963	57 705	36 793	30 802	51 897	26 417	44 036	41 313
構成比(%)	19. 0	19. 8	20. 0	17. 6	17. 6	20. 8	21. 6	20. 6	20. 8

口の比率)」は21.0,「老年人口指数(生産年齢人口100に対する老年人口の比率)」は30.0となっています。この二つを合わせた,生産年齢人口の扶養負担程度を示す「従属人口指数」は51.0で,前年に比べ1.8ポイント上昇しています。また,生産年齢人口の影響を受けないため,高齢化を敏感に示す「老年化指数(年少人口に対する老年人口の割合)」は142.4で,前年より5.7ポイント上昇しています。

平成2年からの推移を見ると,総人口は増加しているものの,総人口に占める年少人口と生産年齢人口の割合は低下し,一方で,老年人口の割合は大

きく上昇しており,福岡市においても高齢化が進んでいることを示しています。

「人口ピラミッド」(5歳階級)を見ると,第1次ベビーブーム世代(1947~49年生まれ)を含む60歳代と,第2次ベビーブーム世代(1971~74年生まれ)を含む30歳代後半から40歳代前半の人口が多く,19歳以下の人口が特に少ないことが分かります。

行政区別に見ても,概ね同じ傾向にあります,博多区や中央区と,西区や早良区とを比べると,年齢構成の違いにより,ピラミッドの形も異なっていることが分かります。

《人口の年齢構成の特徴を表す指数》

年少人口指数

$$= \frac{\text{年少人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

老年人口指数

$$= \frac{\text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

従属人口指数

$$= \frac{\text{年少人口} + \text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

老年化指数

$$= \frac{\text{老年人口}}{\text{年少人口}} \times 100$$

図3 年齢別(3区分)人口(構成比)
(平成26年9月末現在)

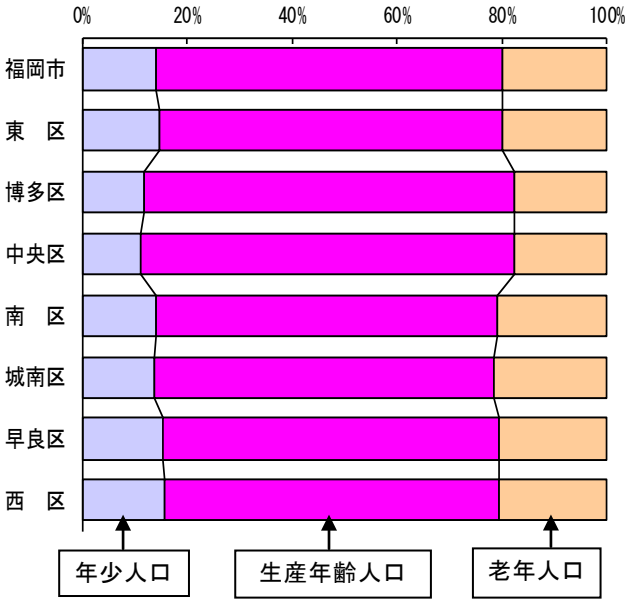
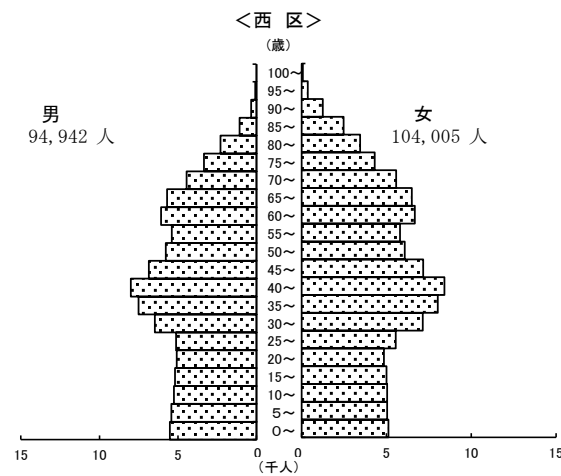
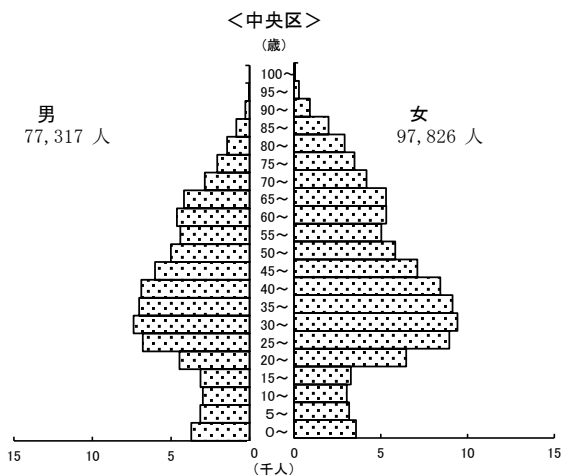
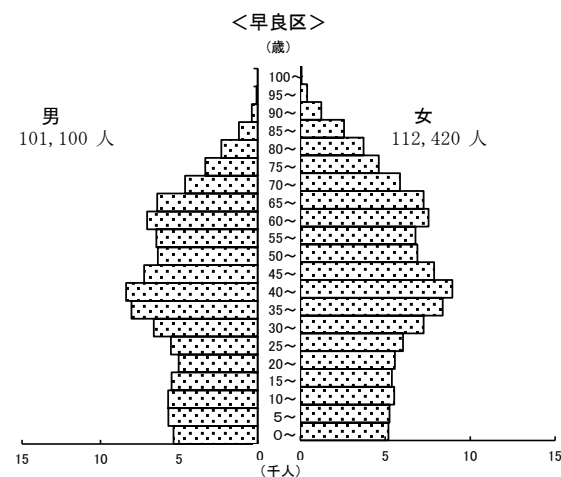
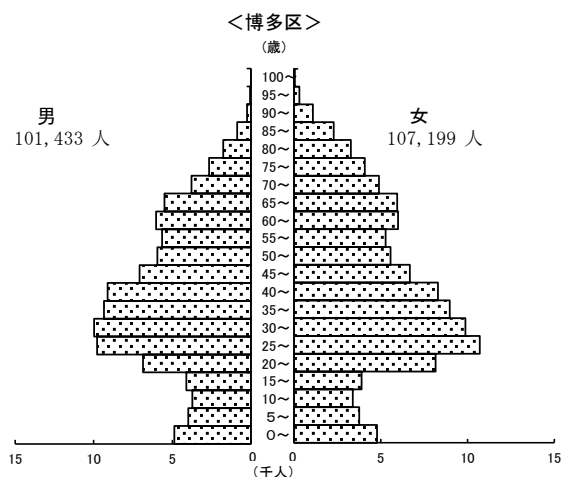
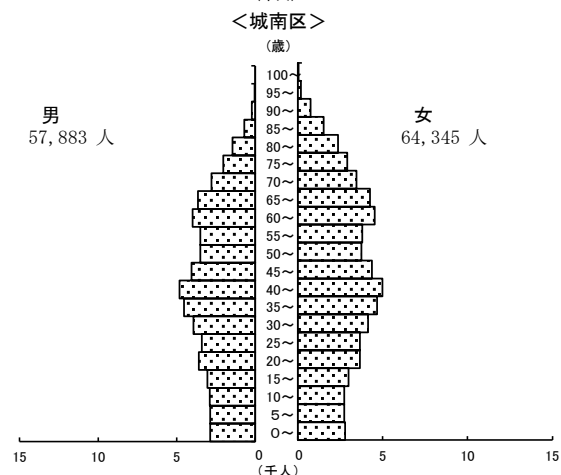
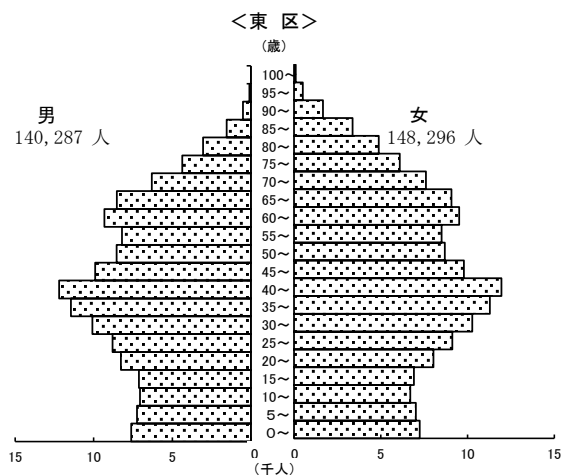
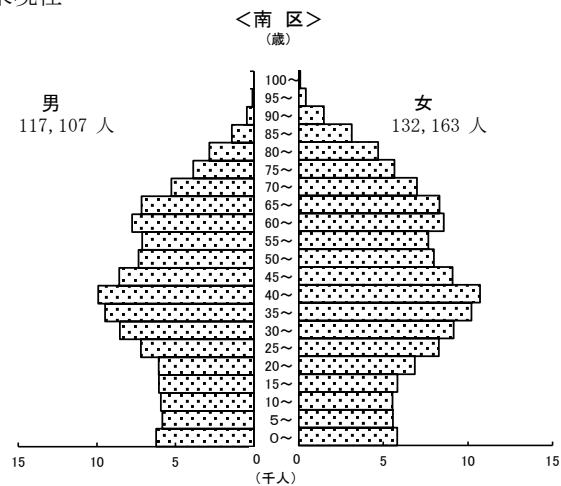
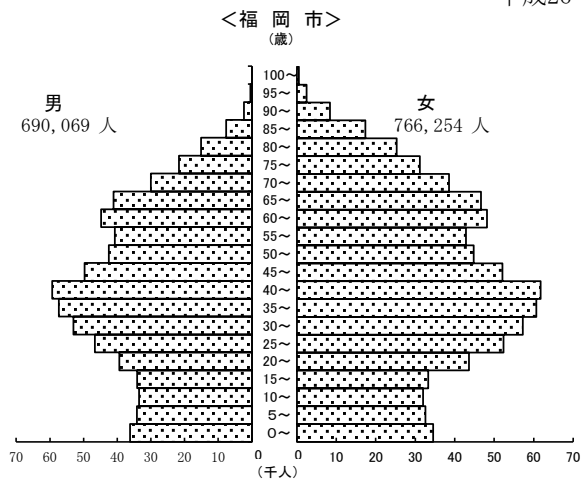


表5 平均年齢, 年齢3区分構成比及び年齢構成指数の推移

年	平均年齢 (歳)	人口総数	年少人口		生産年齢人口		老年人口		年少人口 指数	老年人口 指数	従属人口 指数	老年化 指数
			構成比		構成比		構成比					
平成2年	35.3	1 197 989	230 546	19.2%	856 772	71.5%	110 671	9.2%	26.9	12.9	39.8	48.0
7年	37.2	1 238 762	204 554	16.5%	895 018	72.3%	139 190	11.2%	22.9	15.6	38.4	68.0
12年	38.8	1 291 542	190 824	14.8%	927 609	71.8%	173 109	13.4%	20.6	18.7	39.2	90.7
17年	40.4	1 347 823	189 398	14.1%	950 768	70.5%	207 657	15.4%	19.9	21.8	41.8	109.6
22年	41.9	1 404 525	196 457	14.0%	962 620	68.5%	245 448	17.5%	20.4	25.5	45.9	124.9
25年	42.5	1 444 783	201 272	13.9%	968 414	67.0%	275 097	19.0%	20.8	28.4	49.2	136.7
26年	42.8	1 456 323	202 953	13.9%	964 407	66.2%	288 963	19.8%	21.0	30.0	51.0	142.4

図4 人口ピラミッド（5歳階級）

平成26年9月末現在



(4) 小学校区別人口

女性比率上位5校区中4校区が中央区

小学校通学区域別に見ると、人口が最も多いのは平尾校区(中央区)の22,474人で、以下、舞鶴校区(中央区)の20,728人、博多校区(博多区)の20,338人と続いています。人口が最も少ないのは曲淵校区(早良区)の163人で、次いで小呂校区(西区)、勝馬校区(東区)となっています。

前年と比べた人口増加数は、玄洋校区(西区)の1,045人増が最も多く、以下、平尾校区の694人増、東吉塚校区(博多区)の635人増となっています。

人口増加率は、照葉校区(東区)の10.9%が最も高く、次いで香陵校区(東区)の9.1%、玄洋校区の8.0%と続いています。

性比を見ると、男性の比率が最も高いのは、吉塚校区(博多区)の109.9で、次いで筥松校区(東区)の109.5となっています。一方、女性の比率が最も高いのは、警固校区(中央区)の70.4で、上位5校区のうち4校区を中央区が占めています。

年齢3区分別人口を見ると、年少人口割合が最も高いのは照葉校区の33.5%で、次いで金武校区(西区)の24.7%となっています。生産年齢人口割合は、東住吉校区(博多区)の81.4%が最も高く、次いで春吉校区(中央区)の78.6%となっています。老年人口割合は、曲淵校区の46.0%が最も高く、次いで城浜校区(東区)の43.4%となっています。

老年化指数は、曲淵校区が937.5と最も高く、次いで志賀島校区(東区)の795.1、城浜校区の525.5が続いています。

表6 校区別人口各種比較(上位5校区)

(平成26年9月末現在)

【人口総数】				【人口増加数】				【人口増加率】			
校 区 (行政区)	人口	男	女	校 区 (行政区)	人口	増加数	増加率	校 区 (行政区)	人口	増加数	増加率
	人	人	人		人	人	%		人	人	%
平尾(中央)	22 474	9 593	12 881	玄洋(西)	14 166	1 045	8.0	照葉(東)	5 785	569	10.9
舞鶴(中央)	20 728	9 231	11 497	平尾(中央)	22 474	694	3.2	香陵(東)	4 892	410	9.1
博多(博多)	20 338	9 466	10 872	東吉塚(博多)	11 558	635	5.8	玄洋(西)	14 166	1 045	8.0
那珂(博多)	20 083	10 115	9 968	照葉(東)	5 785	569	10.9	高木(南)	9 011	540	6.4
住吉(博多)	18 448	8 760	9 688	高木(南)	9 011	540	6.4	東吉塚(博多)	11 558	635	5.8

【性比－男性が多い】				【性比－女性が多い】				【老年化指数】			
校 区 (行政区)	男	女	性比	校 区 (行政区)	男	女	性比	校 区 (行政区)	老年人口	年少人口	老年化指数
	人	人			人	人			人	人	
吉塚(博多)	5 250	4 777	109.9	警固(中央)	7 153	10 167	70.4	曲淵(早良)	75	8	937.5
筥松(東)	7 098	6 485	109.5	曲淵(早良)	69	94	73.4	志賀島(東)	652	82	795.1
松島(東)	9 200	8 577	107.3	赤坂(中央)	4 791	6 499	73.7	城浜(東)	1 545	294	525.5
東光(博多)	4 140	3 874	106.9	平尾(中央)	9 593	12 881	74.5	能古(西)	271	66	410.6
香椎下原(東)	6 897	6 474	106.5	福浜(中央)	2 237	2 988	74.9	福浜(中央)	2 016	506	398.4

【年少人口割合】				【生産年齢人口割合】				【老年人口割合】			
校 区 (行政区)	人口	年少人口	年少人口割合	校 区 (行政区)	人口	生産年齢人口	生産年齢人口割合	校 区 (行政区)	人口	老年人口	老年人口割合
	人	人	%		人	人	%		人	人	%
照葉(東)	5 785	1 940	33.5	東住吉(博多)	9 102	7 405	81.4	曲淵(早良)	163	75	46.0
金武(西)	6 212	1 533	24.7	春吉(中央)	12 113	9 526	78.6	城浜(東)	3 564	1 545	43.4
玄洋(西)	14 166	2 813	19.9	高宮(中央)	12 083	9 384	77.7	志賀島(東)	1 555	652	41.9
三苦(東)	9 358	1 810	19.3	堅粕(博多)	10 130	7 866	77.7	福浜(中央)	5 225	2 016	38.6
千早(東)	10 428	2 012	19.3	大楠(南)	10 070	7 709	76.6	能古(西)	707	271	38.3

2. 人口動態（平成26年1～12月）

(1) 自然動態

自然増加 続く

平成26年（1～12月）の自然動態（出生と死亡の数）は、出生数14,576人、出生率（人口1,000人当たりの出生数）は10.01‰（パーミル）、死亡数は10,986人、死亡率（同死亡数）は7.54‰で、自然増加数は両者の差の3,590人、自然増加率（同自然増加数）は、2.47‰となりました。

平成25年と比較すると、出生数は前年と比べ155人減少（前年比1.1％減）、死亡数は前年と比べて132人増加（前年比1.2％増）しました。自然増加数は、前年比287人の減少（前年比7.4％減）となりました。

行政区別に見ると、出生率は博多区の11.01‰が最も高く、次いで東区、西区の順になっています。死亡率は南区の

8.09‰が最も高く、以下、西区、東区が続いています。自然増加率が最も高いのは、博多区の3.68‰で、最も低いのは城南区の1.73‰でした。

福岡市でも高齢化が進んでおり、今後、死亡数が増加していくことが予想されることから、出生数の動向が自然動態を左右すると考えられます。

表7 自然動態の推移

	出生数	死亡数	自然増加	
			実数	率
	人	人	人	‰
H17	12 542	8 762	3 780	2.80
18	13 255	8 915	4 340	3.19
19	13 921	9 104	4 817	3.51
20	13 977	9 654	4 323	3.13
21	14 207	9 341	4 866	3.49
22	14 506	10 158	4 348	3.10
23	14 385	10 459	3 926	2.77
24	14 479	10 703	3 776	2.64
25	14 731	10 854	3 877	2.68
26	14 576	10 986	3 590	2.47

表8 自然動態

市・区	平成25年			平成26年					
	自然増加数	出生数	死亡数	自然増加数	増加率	出生数	増加率	死亡数	増加率
	人, ‰	人, ‰	人, ‰	人, ‰	%	人, ‰	%	人, ‰	%
福岡市	3 877 (2.68)	14 731 (10.20)	10 854 (7.51)	3 590 (2.47)	△ 7.4	14 576 (10.01)	△ 1.1	10 986 (7.54)	1.2
東 区	766 (2.67)	2 995 (10.45)	2 229 (7.78)	723 (2.51)	△ 5.6	2 969 (10.29)	△ 0.9	2 246 (7.78)	0.8
博多区	785 (3.82)	2 306 (11.22)	1 521 (7.40)	767 (3.68)	△ 2.3	2 297 (11.01)	△ 0.4	1 530 (7.33)	0.6
中央区	592 (3.42)	1 689 (9.76)	1 097 (6.34)	533 (3.04)	△ 10.0	1 669 (9.53)	△ 1.2	1 136 (6.49)	3.6
南 区	493 (1.98)	2 453 (9.86)	1 960 (7.88)	480 (1.93)	△ 2.6	2 497 (10.02)	1.8	2 017 (8.09)	2.9
城南区	215 (1.77)	1 169 (9.61)	954 (7.85)	211 (1.73)	△ 1.9	1 124 (9.20)	△ 3.8	913 (7.47)	△ 4.3
早良区	442 (2.08)	2 030 (9.56)	1 588 (7.48)	430 (2.01)	△ 2.7	2 016 (9.44)	△ 0.7	1 586 (7.43)	△ 0.1
西 区	584 (2.97)	2 089 (10.61)	1 505 (7.65)	446 (2.24)	△ 23.6	2 004 (10.07)	△ 4.1	1 558 (7.83)	3.5

注）（ ）内は、各年9月末現在の人口1,000人当たりの自然増加数、出生数、死亡数。

(2) 社会動態（市外移動）

転入超過 続く

平成26年の社会動態(市外との転出入の数)は、転入者数が70,889人で転入率（人口1,000人当たりの転入者数）48.68‰、転出者数が64,072人で転出率（同転出者数）44.00‰、両者の差である社会増加数は6,817人で、社会増加率（同社会増加数）は4.68‰となっています。

平成25年と比較すると、転入者数は1,757人減少（対前年増加率△2.4%）、転出者数は635人減少（同△1.0%）し、社会増加数は1,122人減少（同△14.1%）しましたが、平成8年以降転入超過の状態が続いています。

行政区別に見ると、転入者数が最も多いのは博多区の15,256人で、次いで東区、中央区となっています。転出者数は博多区の13,013人が最も多く、以下、東区、中央区となっており、社会増加数は博多区の2,243人が最も多くなり

ました。平成26年は、全7区のうち南区を除く6区で転入超過となりました。

各区の人口動態の構成を見ると、博多区と中央区は、特に社会増加数の割合が高いことが分かります。

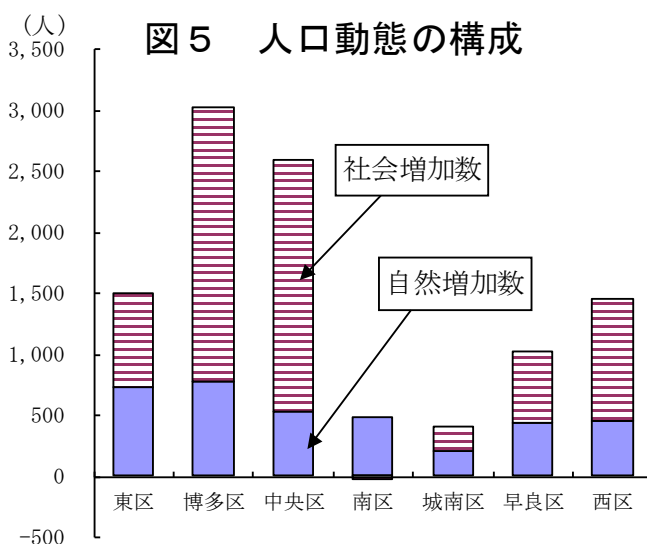


表9 社会動態（市外移動）

市・区	平成25年			平成26年					
	社会増加数	転入者数	転出者数	社会増加数	増加率	転入者数	増加率	転出者数	増加率
	人, ‰	人, ‰	人, ‰	人, ‰	%	人, ‰	%	人, ‰	%
福岡市	7 939 (5.49)	72 646 (50.28)	64 707 (44.79)	6 817 △ (4.68)	14.1	70 889 △ (48.68)	2.4	64 072 △ (44.00)	1.0
東 区	804 (2.81)	13 211 (46.10)	12 407 (43.29)	769 △ (2.66)	4.4	12 990 △ (45.01)	1.7	12 221 △ (42.35)	1.5
博多区	2 302 (11.20)	15 288 (74.38)	12 986 (63.18)	2 243 △ (10.75)	2.6	15 256 △ (73.12)	0.2	13 013 (62.37)	0.2
中央区	2 382 (13.77)	12 499 (72.25)	10 117 (58.48)	2 054 △ (11.73)	13.8	12 289 △ (70.17)	1.7	10 235 (58.44)	1.2
南 区	507 (2.04)	10 199 (40.99)	9 692 (38.95)	△23 △ (△0.09)	104.5	9 773 △ (39.21)	4.2	9 796 (39.30)	1.1
城南区	160 (1.32)	4 505 (37.05)	4 345 (35.74)	190 (1.55)	18.8	4 272 △ (34.95)	5.2	4 082 △ (33.40)	6.1
早良区	541 (2.55)	8 444 (39.75)	7 903 (37.21)	584 (2.74)	7.9	8 223 △ (38.51)	2.6	7 639 △ (35.78)	3.3
西 区	1 243 (6.31)	8 500 (43.18)	7 257 (36.87)	1 000 △ (5.03)	19.5	8 086 △ (40.64)	4.9	7 086 △ (35.62)	2.4

注) ()内は、各年9月末現在の人口1,000人当たりの社会増加数、転入者数、転出者数。

3. 人口移動状況(平成26年1~12月)

(1) 福岡都市圏との人口移動

転出超過 続く

福岡都市圏との人口移動状況は、転入者は12,614人で、前年と比べて97人減少(対前年増加率△0.8%)し、転出者は13,268人で、前年と比べて158人減少(同△1.2%)しました。転入と転出の差は654人で転出超過となり、福岡市外の福岡都市圏への転出超過(人口流出)が続いています。

平成22年からの推移を見ると、転入者

数は減少傾向、転出者数は平成23年の減少以降は横ばい傾向にあります。転出超過数は、平成23年の減少後、2年連続で増加していましたが、平成26年は減少となりました。

地域別の移動状況を見ると、筑紫地域との人口移動が最も多く、次いで糟屋地域、糸島市、宗像地域の順になっています。転入と転出の差では、糟屋地域、筑紫地域、宗像地域は転出超過、糸島市は転入超過となっています。

図6 福岡都市圏との
転入・転出者数の推移

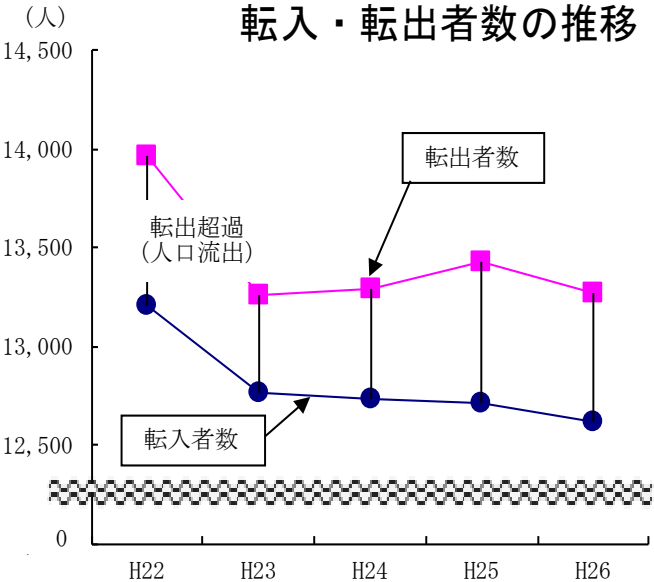


図7 福岡都市圏(地域別)
転入超過数の推移

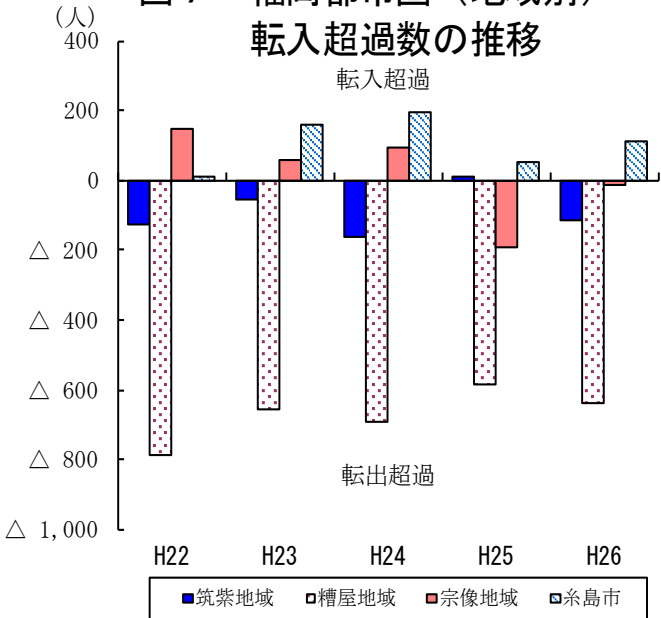


表10 福岡都市圏との人口移動状況

地 域	平成24年			平成25年			平成26年					
	転入	転出	転入超過 (△は転出超過)	転入	転出	転入超過 (△は転出超過)	転入	増加率	転出	増加率	転入超過 (△は転出超過)	
	人	人	人	人	人	人	人	%	人	%	人	
計	12 734	13 293	△ 559	12 711	13 426	△ 715	12 614	△ 0.8	13 268	△ 1.2	△ 654	
筑紫地域	5 826	5 986	△ 160	5 836	5 823	13	5 740	△ 1.6	5 857	0.6	△ 117	
糟屋地域	4 028	4 720	△ 692	4 097	4 685	△ 588	3 915	△ 4.4	4 551	△ 2.9	△ 636	
宗像地域	1 267	1 170	97	1 119	1 312	△ 193	1 280	14.4	1 294	△ 1.4	△ 14	
糸 島 市	1 613	1 417	196	1 659	1 606	53	1 679	1.2	1 566	△ 2.5	113	

注) 筑紫地域…筑紫野市, 春日市, 大野城市, 太宰府市, 那珂川町 糟屋地域…古賀市, 宇美町, 篠栗町, 志免町, 須恵町, 新宮町, 久山町, 粕屋町
宗像地域…宗像市, 福津市

(2) 全国地方別人口移動

九州・沖縄地方との移動が約6割

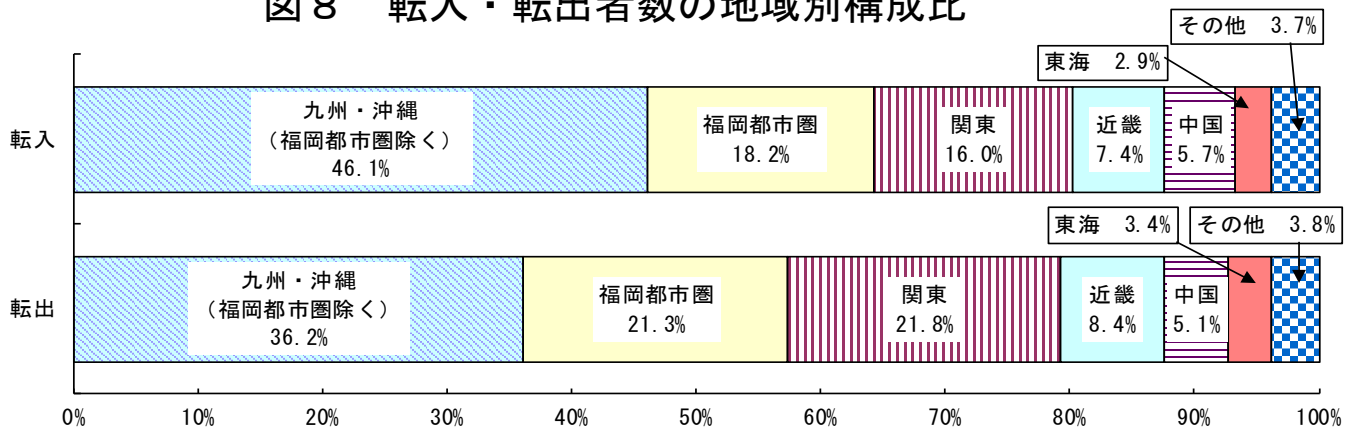
全国地方別に移動状況を見ると、九州・沖縄地方との人口移動が最も多く、転入者は44,621人（対前年増加率△1.8％）で、転出者は35,845人（同△2.4％）となり、8,776人の転入超過となりました。次いで関東地方との人口移動が多く、転入者が11,116人（同△3.1％）で転出者が13,608人（同2.5％）となり、2,492人の転出超過となりました。以下、近畿地方、中国地方、東海地方と続いています。平成25年と比較すると、九州・沖縄地方からの転入超過数は64人の増

加、関東地方への転出超過数は685人の増加となりました。

また、転入者数・転出者数ともに、九州・沖縄地方との移動が約6割、関東地方との移動が約2割を占めています。

近年の福岡市の人口移動の特徴としては、九州・沖縄地方、関東地方との移動が大きな部分を占め、また平成26年は過去2年と同様、九州・沖縄地方(福岡都市圏を除く)からは流入し、福岡都市圏と関東地方へ流出しているということが言えます。

図8 転入・転出者数の地域別構成比



注) 国外、住所不明を除く

表11 地方別転入・転出者数

地 方	平 成 24 年			平 成 25 年			平 成 26 年					
	転入	転出	転入超過 (△は転出超過)	転入	転出	転入超過 (△は転出超過)	転 入		転 出		転入超過	
							人	%	人	%	人	%
総 数	73 677	64 789	8 888	72 646	64 707	7 939	70 889	100.0	△ 2.4	64 072	100.0	△ 1.0
北 海 道	505	476	29	505	418	87	476	0.7	△ 5.7	482	0.8	15.3
東 北	713	629	84	659	590	69	663	0.9	0.6	651	1.0	10.3
関 東	12 584	12 979	△ 395	11 475	13 282	△ 1 807	11 116	15.7	△ 3.1	13 608	21.2	2.5
北陸甲信越	560	567	△ 7	581	534	47	585	0.8	0.7	504	0.8	△ 5.6
東 海	2 179	2 203	△ 24	2 179	2 176	3	2 004	2.8	△ 8.0	2 140	3.3	△ 1.7
近 畿	5 276	5 406	△ 130	5 213	5 512	△ 299	5 142	7.3	△ 1.4	5 216	8.1	△ 5.4
中 国	4 202	3 206	996	4 126	3 114	1 012	3 949	5.6	△ 4.3	3 210	5.0	3.1
四 国	1 048	847	201	956	772	184	863	1.2	△ 9.7	734	1.1	△ 4.9
九州・沖縄	45 152	36 905	8 247	45 450	36 738	8 712	44 621	62.9	△ 1.8	35 845	55.9	△ 2.4
国 外	1 457	1 567	△ 110	1 502	1 571	△ 69	1 470	2.1	△ 2.1	1 676	2.6	6.7
住所不明	1	4	△ 3	—	—	—	—	—	—	6	0.0	皆増

注1) 東北地方…青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県 関東地方…茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県 北陸甲信越地方…新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県 東海地方…岐阜県、静岡県、愛知県、三重県 近畿地方…滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県 中国地方…鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県 四国地方…徳島県、香川県、愛媛県、高知県 九州・沖縄地方…福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

注2) 都道府県別の転入・転出者数、福岡都市圏の市町村別転入・転出者数は97,98ページに掲載